



九州支部「第23回日本生物工学会 九州支部飯塚大会」報告

第23回日本生物工学会九州支部飯塚大会を2016年12月3日（土）、九州工業大学情報工学部講義棟（飯塚キャンパス）にて開催いたしました。福岡県飯塚市での開催は、2000年度、2009年度に続いて3回目になります。大会参加者数は174名（一般74名、学生ちょうど100名）に達し、講演数は90題（一般講演70題、学生賞応募講演20題）を数え、晴天にも恵まれて大盛會でした。9時30分から一般講演を3会場で、10時から学生賞審査を2会場で行いました。朝から夕方まで、どの会場でも熱心な質疑応答が行われました。学生賞は修士課程・博士課程の2部に分けて並行し、それぞれ九州全域からお越しの6名の審査員によって厳正なる審査が行われました。お忙しい中、座長ならびに学生賞審査をご担当くださいました先生方に厚くお礼申し上げます。昼の休憩時間には、支部評議員会が開催されました。

13時10分から開催した特別講演では、まず本学会会長で東北大学大学院農学研究科教授の五味勝也先生にご挨拶いただきました。その後、ホスト側で実行委員長の坂本順司（九州工業大学情報工学部）が、「細菌の好氣的代謝の多様性と微好氣型オキシダーゼの最初の立体構造」と題して、この春*Science*誌に掲載された成果を一つの軸に講演を行いました。次にゲスト講演者として、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科長で元日本生化学会会長・東京大学名誉教授の北潔先生が、「ミトコンドリア呼吸鎖電子伝達系 一創薬ターゲットとして」と題して、病原原虫や寄生虫を標的としたレッド・バイオテクノロジーに関する最新のデータや開発状況まで含めてお話しくさしました。

18時から恒例のミキサーを、生協食堂に隣接した「ラーニングアゴラ」という新しいスペースで行いました。ここではまず、飯塚酒造業協会の4蔵元からご寄付いただいた清酒と、別府大学の岡本啓湖先生がお持ち寄りくださった焼酎について、副実行委員長の坂本寛先生が紹介したのに続いて、委員長が乾杯の発声をしました。ミキサーには多数の大会参加者が出席し、お酒と料理を楽しみながら、情報交換や交流が深められました。宴もたけなわの半ば頃、学生表彰が行われました。本年度の受賞者は6名で、博士課程の部は坂本裕希さん（九大院・工）「肝不全モデルラットを用いた臓器工学的肝グラフトの性能評価」と須志田浩稔さん（九大院・農）「多成分バクテリオシントランスポーターEnkTの基質寛容性に関する研究」の2名、修士課程の部は木村遥奈さん（九大院・工）「機能性移植基材としての脱細胞化ブタ肝臓由来可溶性マトリックスの開発」と中島音海さん（九工大院・情報工）「細胞内ヘム動態の検出に向けた新規バイオプローブの開発」、高城博也さん（九大院・農）「特異な環状構造をもつ乳酸菌由来抗菌ペプチドの新奇生成成遺伝子群の同定と解析」、鳥居怜平さん（九工大院・情報工）「植物における新規ホルモン様ペプチドの探索」の4名でした。酒井謙二支部長から各受賞者に賞状と記念品が贈呈され、受賞者から一言ずつコメントと今後の抱負を述べてもらいました。受賞者の皆様の更なる飛躍をお祈りします。引き続きゲスト特別講演者の北先生から、特に学生と若手研究者に向けた励ましのご挨拶をいただきました。再び歓談を続けた後、最後に酒井支部長の博多一本締めにより、ミキサーを終了しました。

2017年度は、琉球大学の外山博英教授を実行委員長として12月9日（土）に開催される予定です。多くの皆様のご参加を期待しております。

（坂本 順司）



会場の九州工業大学飯塚キャンパス正門前



学生賞授賞式の様子